

7月9日もくもくプロジェクト下見の所感

デザイン学科1年 Y.M.

私たちはまず天龍の山へ赴きました。林家さんのお話を聞きながら森林を歩きました。木に書かれている数字、植えて合う木の年数や種類、木表の歪みの理由について等たくさんのお話を聞くことができました。

次に丸太市場へ行きました。そこでは伐採された丸太の選別の場面や機械を見学でき、また各木材の断面やどの木材が高価かを知ることができました。

その次に、浜松木材で実際に製材するところを見学しました。大きな機械で大きな木材を切り、



きれいに製材されていく過程を拝見し、そのほか、製材する前と後での木の重さを体感することができ、加工された木材がどのように使われていくかなどを聞くことができました。

最後には渥美友茂邸へ足を運び、木材を生身で感じられる屋内で話し合いをし、1日を終えました。

私はこの上記の活動を通して自然の偉大さと生きているということを実感・体験することができたことがとても大きかったと感じています。道中の車から見える景色にも興味をそそられましたが、実際の現場ではその倍の驚きを得ました。木の年数別の大きさを視認したり、裏向きに植えたら逆を向こうと木表が曲がっていたりなど、その他にも木だけでなくその土地の植物全ての存在や生きようとする活力を享受することができ、とても心を動かされました。丸太市場や製材所でも、木の匂いを嗅ぐ、丸太の断面の年輪や色の違いなどを見ても木の生命力に感心するばかりでした。現場の方のお話を聞いていて、木に対する考え方や向き合い方に“思いやり”を感じたことも、私の所感により一層拍車をかけた出来事でした。

今回の見学では、勉強としての学ぶことも勿論多かったです、それ以上に体験することによって木という存在に一步近づけたことはとても大きかったです。見学に行く前は木について学ぼうといったとても漠然としたことを思っていました、そう思っていたことがとても失礼に聞こえるほど、良い経験ができたと思います。この感じたことを糧として、今後のプロジェクトに大きな影響を与えて行きたいと思ったのと同時に、プロジェクト外でも自分なりに木を含めた私たちが昔から付き合いしてきた生きとし生けるものとの向き合い方を探っていければと思いました。



